

## 生命地域妙高環境会議 設立趣意書

平成27年3月27日、全国で32番目の国立公園となる妙高戸隠連山国立公園が誕生しました。

平成17年度の合併当初から「生命地域の創造」をまちづくりの基本理念に掲げている本市にとって、妙高の名を冠した国立公園の誕生は、北陸新幹線・上越妙高駅の開業とともに、地域振興の千載一遇の機会であります。

妙高戸隠連山国立公園の誕生は新たなステージの幕開けであり、これをどのように活かしていくかが、我々に問われているところであり、妙高山麓の厳しくも豊かな自然環境や、そこから恵みを受けた私たちの生活・文化・歴史などの自然観光資源を持続可能な資源として、適切な保全と活用を図りながら、次代に継承することが、私たちの使命であると考えております。

妙高火山群の活動により形成された当市の大地には、ブナやミズナラなどによる深遠な森が育ち、森に湛えられた水は壮大な苗名滝や関川の流れをつくり出しています。そこには冬の寒風や多雪に耐えてきた多様な動植物が生息し、厳しくもすばらしい自然の営みの中で人々は独自の文化や生活様式、そして山岳信仰等があいまった特徴ある風景を作り出してきました。朝・夕に眺める雄大な妙高の山並み、特に妙高山は郷土のシンボルとして、小・中学校の校歌には必ずと言ってよいほど歌い込まれ、私たち市民のアイデンティティー形成の根源となっており、地域の活性化にむけてはこれら自然観光資源の適切な活用を図る中での振興が求められています。

このような中、ライチョウや里地里山の保護・保全、また環境教育などの各分野において、豊かな見識とキャリアを持つ皆様からお集まりいただき、自然環境の保全などに係る諸課題に総合的に対応する「生命地域妙高環境会議」を設立することにより、美しく多様性に富む妙高の自然環境を次代に継承する「生命地域創造都市妙高」の実現を目指します。

平成28年5月13日

妙高市長

入村 昭